

## 令和元年度第2回桑名市総合計画審議会 会議概要

日時・場所	令和元年10月4日（金）13：30～15：10 桑名市役所 3階第2会議室
出席者	委員：7名 市：2名 事務局：6名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 副市長あいさつ</li> <li>3 議案               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 会長及び副会長の互選について</li> <li>(2) 桑名市総合計画「後期基本計画」（案）について</li> <li>(3) その他</li> </ol> </li> <li>4 閉会</li> </ol>
概要 (主な意見)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 副市長あいさつ</li> <li>3 議案               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 会長及び副会長の互選について                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・西村委員を会長に、小笠原委員を副会長にすることで、参加者一同同意。</li> </ul> </li> <li>(2) 桑名市総合計画「後期基本計画」（案）について                   <p><b>【事務局より概要説明】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去5年の内容と今後の取組みを記載し、最後の仕上げを実行していくということで非常によくまとまった計画と考えている。</li> <li>・とても分かりやすい計画になっていると思う。財政改革は市長も力を入れて、発信しているため、取組みが伝わっていくと良いと思われる。</li> <li>桑名市の状況について、感じていることを述べると、子育てに関しては、若い母親が働きながら子育てを両立しており、学童保育も徐々に充実してきていると感じている。重点項目では、医療に関しては、枝葉末節ではあるが、新しい医療センターは駐車料金が高く、医師も少し若いので、より充実できないかとの声がある。医療は一例であるが、市民の声を吸収できる場は確保しておいてほしい。</li> <li>後期計画については、前述の通り、市政の見える化はできていると考えられるため、それをどのように仕上げていくかわくわくする。この点、市の発信が市民や企業にどこまで伝わっているかが重要であるため、どの程度伝わっているかの検証は必要になると思われる。</li> <li>・桑名市の状況をみると、駅前工事等が進み、若い母親世代も積極的に働いており、変わってきているという雰囲気が出てきていると感じている。だからこそ、前期計画の期間で形にしてきたものを、後期計画の期間で仕上げる</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol>

ということで、見えてきた課題について、11の重点プロジェクト等を土台に対応して行ってもらいたいと感じている。

・前期計画よりも内容を深く理解できると感じている。これはある程度知っていることが要因と考えており、市民の方にも、全部ではなく、せめて自身の関心のある部分だけでも興味を持って頂いて見てもらうことが重要と思われる。この計画書（※各基本計画）は、A4版の見開きでまとめられていて、内容がとても分かりやすい。例えば、様々なイベントのブースで出展して周知するという方法も考えられる。

・読んで理解できるということは計画書としてできているということ。この計画書（※前期基本計画）は、三重大学として策定に携わっているが、各基本計画は1枚のポスターという想定で、関係している市の各課がポスターのように貼り付けてほしいという思いがある。また、計画の内容が「中学生以上の方に分かりやすいように」ということを目指して、イラストや、計画が示す内容を「標語」として五七五の俳句形式でメッセージを作成する等、桑名市が目指しているものを伝える工夫しているので、是非それを活かしてほしい。

・どこを見れば良いかが分かりやすい。この会議が始まって6年になるが、この間、市も変わってきており、それがこの会議に参加していることもあり、手に取るように分かるようになってきた。

なお、意見を述べるとすると、防災関連では、思いもよらないことで大きな災害が発生することがあるので、引き続き深く考えて対応頂きたい。

・もう6年経つので、委員のメンバーは内容を把握してきたが、今後は他の市民の方に伝えていくことが重要と考えられる。それは我々委員メンバーも責任があるかもしれない。例えば、委員メンバーが小委員で他の市民に総合計画の内容を伝えていくという座談会のような場があっても良いかもしれない。行政での足場づくりはできつつあるため、次はそれを活かすために、委員も協力して市民を巻き込んでもいくことを考えても良いかもしれない。

・市民にとって有益な制度について市民に浸透していないという出来事があった。例えば、国民年金のために住民票の取り寄せ費用が無料になったことについて知らなかった。市民にプラスになることや桑名市のいい面を、市民が知らないのはもったいないため、行政側はもっと積極的に情報発信してほしい。

他にも、例えば、防災倉庫の物を市で定期的に入替を行っているのか？賞味期限がきたものは、団体等に提供してもらえれば防災訓練等で使えるので、そのような活用してもらえたら良いと思う。乾パンなんかは、パサパサして水がないと意外と食べ難いことなどが体感できる。

・こういう場を通じてこそ発信頂ける具体的な意見だと思う。防災という点では、備蓄食料を食べるということも訓練になり、そういった機会があってもよい。

情報伝達は市役所職員の人員数も限られている中、どのように市民に伝えていくかは難しい課題であると思う。市民の情報の得方も多様になってきているため、引き続きの課題として検討して頂きたい。

・本審議会の内容は商工会議所等でフィードバックしている。ただし、地元の同年代の男性（40代半ば）では、興味がないためか、総合計画を知らない、あるいは市政の情報にも関心が少ないという方が多い。情報の伝え方は大きな課題と考えており、情報入手も世代によって多様化している中、中々発信方法は難しいかと思う。その中でも、難しいかもしれないが、例えば、ケーブルテレビも活用する等、地道な広報活動をしていくことが施策を実現して

いくために重要かと思う。何かしら情報発信する仕組みを、お金をあまりかけずともできることはあるのではないかと思う。

・ターゲットを絞ってやり方を検討していくことは有用と思われる。一つは、男性・女性とも、無関心の層（特に30～40歳代の男性）は強制的に市政関連に巻き込むことは考えられる。例えば、私自身も自治会に参加し、公民館の清掃、草刈、バス旅行の参加を通して、初めて知ったことや分かった部分がある。

もう1点は、これからの桑名市を考えることになる30～40歳代の中核の市民に教育の実施をすることが考えられる。例えば、紀北町では、毎年リーダー研修を実施している（6年程度）。20名ほど集めて毎年実施しているため、参加者の意識が高まっているほか、そこから様々な繋がり・広がりがみられる。こういった世代は市政には興味を示さないが、「異業種交流会」的な伝え方をすると、熱く語ることもある。世代に応じた取り組みは検討頂くのが良いかと思う。

・今回の計画はよく出来ていると感じている。その一方で、情報発信については課題があると考えている。計画の中にはこれまでの取組み（医療、防災、建設）を記載しているが、これらの中には市民生活の中では見えにくい内容もあり、行政側は情報発信をしているつもりでも、市民は気づいていないことも多いので、発信の工夫をして頂きたい。

例えば、防災では、日赤のヘリコプター DMAT（※災害派遣医療チーム）が年に1～2度来るということを市民は知らない方も多いほか、星見ヶ丘に建設される防災拠点施設についても、地域の自治会で説明をしても、知られていないケースが多い。このため、今後は桑名市の見える化をより進めて頂いてもらいたい。特に、行財政の改革については、厳しい財政状況にあったが、少しずつ改善していることを、もっと市民にPRをして良いと思われる。

・情報発信については、伝え方のほかに、読み取らせる工夫も必要と考えられる。今回の計画書もよくまとまっているが、言葉の関係性・繋ぎが少し遠慮がちかなと感じた。特に行財政改革はしっかり取り組んでいるのに、計画の記載内容では他団体との比較から「悪い」としか見えない。桑名市の努力を上手く読み取らせることも必要と思われる。

また、市民に伝わっていないということは、拾い切れていない声（例：30代・40代独身の男性層）があるとも考えられる。幅広い市民からどのように声を拾い上げているかを意識すると、より良い内容になると思われる。

・防災に関しても、行政側はもっとアピールした方が良い。液体ミルクの備蓄を始めたと聞くと、賞味期限が近くなったものを県ではフードバンクへ提要求するということもあるが、子育てしているお母さんに提供することで、知ってもらおうということもできるのではないかと。情報は、行政からの発信を通じてではなく、雑誌等を通じて知ったという方も多い。また、若い世代の母親のネットワークを通じて情報は広がるので、そのようなところもターゲットに情報を広めて頂きたい。

また、外国人の防災について、過去に市で外国人向けの避難訓練を実施されたと思うが、それ以降実施されておらず、MIEF（三重県国際交流財団）の方も気にしていた。私もできることは協力したいと思う。

・情報発信に協力してもらうために、実際の物を提供することや、市民への理解浸透のためには、そういった試してもらう機会があっても良いかと思う。

・防災の関係で排水対策（排水機場）について、長島地区では、昔は木曾川のすぐ近くのところで排水していたのが、それができなくなり、今は下流の数キロ離れたところで排水するため、水路で流している。上流の方の東名阪

	<p>の高速道路のところでは水道水を送水していて、排水も、上流の方の長良川の方へ流す等、合理的な工夫ができないのかと思う。また、台風等の災害のほかに集中豪雨等による浸水もあるので、防災については、幅広く検討を頂きたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民の皆さんの気になっていることは、行政に是非伝えてほしい。行政側は既存の延長上で考えていると見えなくなることもあるので（社会情勢の変化等）、違う視点から見てみることも重要。防災についても、市民の安全・安心のために、違う視点や考えを取り入れてみることもよいと思われる。</li> <li>・桑名市の持っているポテンシャルの最大発揮を図ることが重要と思われる。例えば、伊勢市で取り組んでいるのが、食の町としての取り組みで、伊勢市では就業人口が減っていることもあるが、一人当たりの農業・漁業の収入は増えてきている。桑名市もポテンシャル発揮を前向きに考えていくことが重要と思われる。 また、行財政を整えているなら、市役所の改装（改築や内装のリノベーション）も検討しては良いのではないか。働いている人が明るい雰囲気になることで、市の雰囲気も明るくなるのではないかというイメージがある。伊勢市役所のリノベーションがそのような感じである。</li> <li>・外国人が増えている点について、企業側はどこそこの日本語教室（無料教室）で勉強して来いと送り出しているが、それは少しおかしいのではないか。日系人の子供の就学の場合、両方の言葉で中途半端になっているケースも少なからずみられる。その場合、言語能力が落ちるということは、仕事への影響にも繋がる。例えば、子どもであれば、日本の学校に入る前の、プレスクール整備も必要と思われる。</li> <li>・外国人は今後も必ず増えていくので、重要な視点である。国際化が進んでいく中で、自分たちの町の中でできていないことへの対応は、しっかりと考えていくことが重要である。市が対応していない部分については、どこか他の人や団体に押し付けてしまっていないかという視点は必要である。</li> <li>・本日の議論の振り返りにもなるが、計画は総じてよくまとまっていると思われる。今後は、桑名市の次の段階として計画に魂を入れていって実行してほしい。 今後も外国人は増えていく中で、市民としてどう過ごして頂くのかを検討するなど、桑名市としてすべての人を平等にケアしていく必要があると思われる。今後 100 年の桑名市の基礎を作るという視点で後期の計画を策定してほしい。</li> </ul> <p>(3) その他</p> <p>(※特になし)</p> <p>4 閉会</p>
<p>担当課</p>	<p>市長公室 まちづくり推進課</p>